

小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅における 入居者の生活実態

福祉社会開発研究センタープロジェクト2
高齢者生活支援グループ 研究員
東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科
講師 神吉 優美

1. 背景と目的

日本は世界に先駆けて超高齢社会に突入し、高齢化問題が社会における主要なテーマとなっている。特に中山間地域における高齢化の進行が著しい。

2000年の国勢調査によると、山古志地域の高齢化率は34.6%であり、3人に1人が高齢者であった。また、高齢者のいる世帯についてみると、高齢夫婦のみの世帯が29.6%、高齢単身世帯が8.9%を占めていた。2004年の中越地震以後、若年層の流出がみられ、高齢化率および高齢夫婦・単身世帯率の進行が加速している。

山古志地域に暮らし続けたいと願う高齢者は多い。しかし、地域内に生活利便施設が乏しく、冬期間に豪雪に見舞われる環境の中で、高齢者、その中でも特に高齢者のみの世帯が暮らし続けるには困難を極める。特に高齢者が要介護状態となった場合、福祉サービス基盤が脆弱であるため自宅で住み続けることは難しく、自宅に住み続けられなくなると地域内に入居型の施設がないため地域外に転出せざるを得ない状況にある。しかし、今後、大規模な入居型施設が地域内に建設される可能性は低い。

近年、小規模複合サービス拠点に併設して高齢者住宅（以下、小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅）を整備する試みがみられる。高齢者は自宅を離れるけれども、住み慣れた地域において、これまでの家族や友人等との人間関係も含めたライフスタイルを継承できること、および、いつでも隣接施設からの福祉サービスを受けられることにより安心して暮らせることが

目指されている。このような住宅であれば山古志地域内にも建設可能ではないかと考えられる。

そこで、本稿では小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅先進事例である「ユニバーサルハイツ永田」を調査対象として取り上げ、入居者の属性、自宅に住み続けられなかった理由、小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅を選択した理由、生活展開、福祉サービス利用状況、外出状況、交流状況を明らかにすることから、小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅の実態を把握し、課題を抽出する。これらの分析を通して、小規模複合サービス拠点併設型高齢者住宅が山古志地域内の高齢者居住のオルタナティブとなりうるかどうかについて検討したい。

2. 調査概要

2-1. 調査対象住宅の概要

ユニバーサルハイツ永田（以下、UH永田）およびサポートセンター永田（以下、SC永田）の概要を図1に示す。

UH永田およびSC永田は、2004年2月に開設された。UH永田は民間事業者が建設した賃貸住宅であり、入居者は民間事業者と賃貸契約を締結するが、入居者の選定はSC永田を運営している社会福祉法人が担当している。入居要件は、要介護高齢者または虚弱高齢者となっている。高齢者施設とは異なり、賃貸住宅なので配偶者との入居が可能である。建物は8住戸で構成されており、全住戸バリアフリー仕様となっている。各住戸の面積は22.1㎡であり、ミニキッチンやトイレが設けら

<p>(1) ユニバーサルハイツ永田 (UH永田) の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設時期：2004年2月 ・事業主体：民間事業者 (入居者は民間事業者と賃貸契約を締結) ・住戸数：8室 ・各住戸： <ul style="list-style-type: none"> 面積：22.1m² 設備：ミニキッチン、トイレ、収納、緊急通報等 ・家賃等 <ul style="list-style-type: none"> 入居時... <ul style="list-style-type: none"> 敷金：40,000円 不動産仲介料：40,000円 保険料：10,000円 (1回/2年) 毎月の家賃等... <ul style="list-style-type: none"> 家賃：40,000円 管理費：20,000円 光熱費：実費 食費 (利用者のみ)：朝200円、昼300円、夜260円 ・補助金：建設に当たり、長岡市から1,000万円の補助金あり¹⁾ <p>(2) サポートセンター永田 (SC永田) の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設時期：2004年2月 ・事業主体：(社)長岡福祉協会 ・サービス内容 <ul style="list-style-type: none"> A. 介護保険事業 <ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスセンター永田 (通所介護・一般型・365日対応型・定員26人) ・こぶし24時間ケアサービスステーション永田 (訪問介護・24時間365日対応型) ・サテライトこぶし第4訪問看護ステーション永田 (訪問看護・365日対応型) ・ケアプランセンター永田 (居宅介護支援事業所) B. 介護保険事業以外 <ul style="list-style-type: none"> ・長岡市在宅介護支援センター永田 (24時間365日対応型・相談業務のみ) ・配食サービスステーション永田 (3食365日の配食サービス)

図1 UH永田およびSC永田の概要

れている。敷地周辺状況を図2に示す。UH永田は、JR信越本線・北長岡駅から東南東に約900mの位置にある。UH永田から約200mの位置に郵便局とJA、約300mの位置に高齢者複合施設、図書館、美容院、バス停、約400mの位置に大型スーパー、ドラッグストア等があり、その他にも飲食店や小売店が数多くあり、利便性の高い市街地に立地している。

UH永田に隣接するSC永田は小規模複合サービス拠点であり、(社)長岡福祉協会が運営している。介護保険事業としては、デイサービスセンター、訪問介護ステーション、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業

所があり、介護保険事業外としては、長岡市在宅介護支援センターおよび配食サービスステーションがある。

2-2. 調査方法

UH永田において、以下に示す調査を2007年9月に実施した。

<調査1> SC永田管理者へのインタビュー調査

<調査2> UH永田入居者へのインタビュー調査。入居している8世帯の内、調査協力の了承が得られた5世帯に対してインタビュー調査を実施した。

<調査3> UH永田における住み方調査。運営法人から平面図を入手した上で、各住戸における家具の配置を採取し、写真を撮影した。

3. 入居者属性

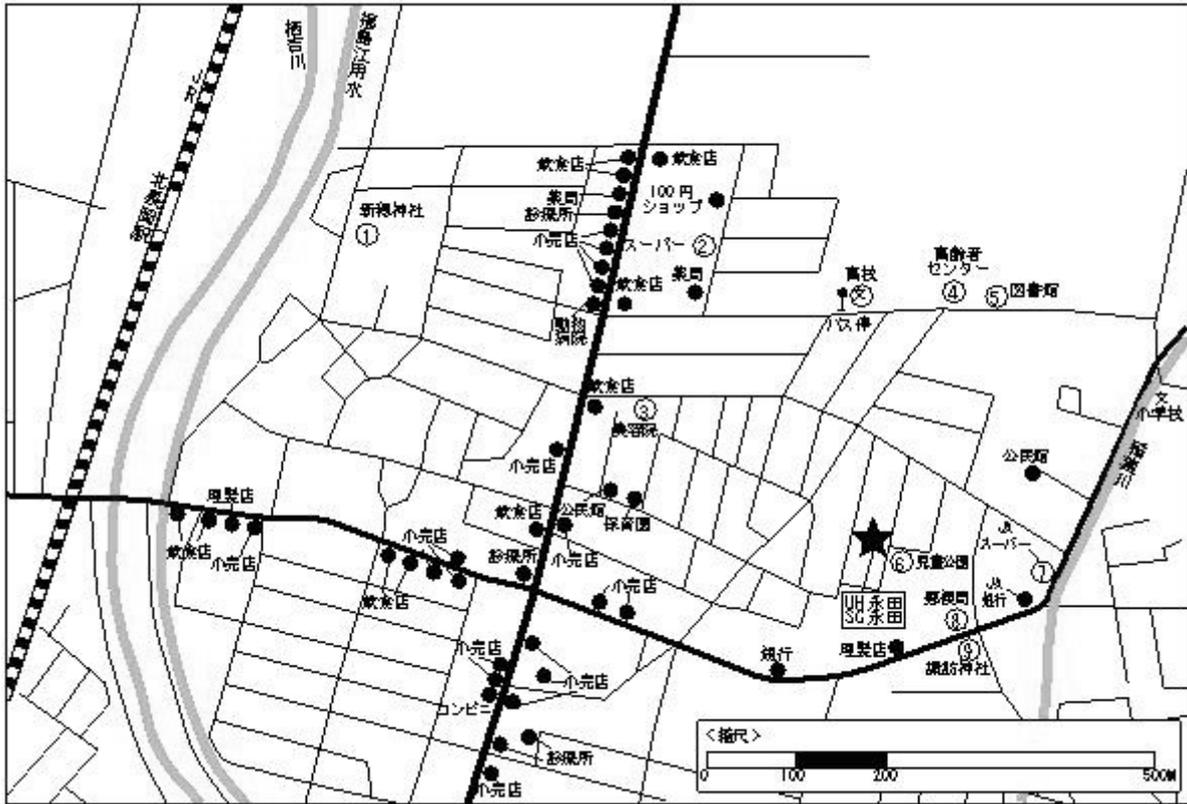
調査協力の了承が得られた5世帯6人の属性を表1に示す。

世帯構成は5世帯中1世帯が夫婦世帯である。4世帯が独居であり、その内2世帯は入居時点では夫婦世帯であったが、その後夫が死亡し独居となっている。性別では、夫婦で入居しているD-1さん以外は全て女性である。年齢についてみると、66歳のCさんを除くと全て80歳代である。要介護度は、自立が2人、要介護1が1人、要介護2が3人と比較的軽度の人が多い。

UH永田入居前の居住地をみると、中越地震で自宅が全壊したDさん夫婦を除くと、近距離からの引越しが多い。民間賃貸住宅で暮らしていたAさんとEさん、および市営住宅に暮らしていたBさんは、入居に当たり契約を解除している。Cさんは自分の所有する住宅で暮らしていたが、UH永田入居後に中越地震で全壊となり、取り壊している。また、Dさん夫婦は所有する自宅の中越地震に遭い、その後避難所を経由して仮設住宅で暮らしていた。このように、6人全てUH永田を退去して戻る住宅はない状況にある。

4. UH永田への入居理由

表2に自宅で住み続けられなくなった理由、UH永田



新穂神社



大型スーパー



美容院



高齡者センター



図書館



児童公園



JAスーパー



郵便局



諏訪神社

図2 UH永田の周辺状況

表1 入居者の属性および入居前の住宅

入居者	世帯構成	性別	年齢	要介護度	入居前住宅	UH永田からの距離
A	独居 (入居時夫婦)	女	87	自立 (入居時夫は要介護3)	賃貸住宅 (入居に当たり契約解除)	約0.5km
B	独居	女	82	要介護1	EVのない市営住宅の4階 (入居に当たり契約解除)	約1.0km
C	独居 (入居時夫婦)	女	66	自立 (入居時夫は要介護4)	戸建住宅(所有) (入居後、中越地震で倒壊)	約6.5km
D-1	夫婦	男	88	要介護2	震災仮設住宅 (震災前の家は中越地震で全壊)	約13.0km
D-2		女	84	要介護2		
E	独居	女	83	要介護2 (入居時は要介護3)	賃貸住宅 (入居に当たり契約解除)	約2.5km

の情報入手経路、入居にあたり相談した人、UH永田を選択した理由について示す。

4-1. 自宅で住み続けられなかった理由

AさんとCさんは、要介護度の重い夫との2人暮らしであった。要介護度の重い父親がこのまま家で暮らし続けるのは困難であろうと判断した子供が転居を勧めている。BさんとEさんは、子供はおらず、夫と死別した後は一人で暮らしていた。Bさんの場合は脳梗塞、Eさんの場合は大腿骨骨折により入院し、退院後は福祉サービスを利用しながら自宅で暮らしていたが、これ以上一人で暮らし続けるのは無理だと考えるようになった。特にBさんの場合は、EVのない市営住宅の4階の住戸に暮らしていて、デイサービス以外は全く外出できない状況にあった。Dさん夫婦のケースは特殊である。山古志村において夫婦2人で暮らしていたが、中越地震で住宅が全壊した。住宅を修理することも検討したが、夫婦2人での山の暮らしは無理だろうと判断し、山古志村に戻るのを断念した。

4-2. UH永田の情報入手経路および入居にあたり相談した人

特別養護老人ホーム等の高齢者施設の認知度は高いが、UH永田のような高齢者住宅に対する認知度はまだ高くない。このような状況において、どのようにUH永田について情報を得たのかについて質問した。

Cさんはケアマネジャーから、Eさんはヘルパーから

UH永田について情報を得ていた。Aさん、Bさん、Dさん夫婦は子供や親戚から情報を得ている。Aさんの場合は娘がUH永田の町内に暮らしており、UH永田の内覧会に参加した。Bさんの場合は、転居先を探していた姪が運営法人のスタッフと知り合いで情報を得た。また、Dさんの場合は、次女がAさんの嫁と知り合いで、UH永田の情報を得た。

転居するにあたり相談した人は、子供のいる場合は子供に相談している。複数の子供がいる場合は、近くに住む子供に相談し、その子供が入居の手続きなどを行っている。

子供がいない場合は、兄弟に相談している。

4-3. UH永田を選択した理由

子供のいるAさん、Cさん、Dさんは、子供の家あるいは子供の職場から近いことを理由にあげている。要介護度の重い夫との2人暮らしであったAさんとCさんは、このまま家で夫と暮らし続けるのは困難と思いつつも、夫だけ高齢者施設に入居させることに抵抗があり、夫婦で入居できるUH永田を選択している。また、元々住んでいた住宅に段差が多く転倒の危険性が高かったAさん、Bさん、Eさんは、UH永田がバリアフリー住宅である点も評価している。その他に、敷地周辺が平坦で外出しやすい、周辺に生活利便施設が多くて便利、何かあったときに電話をかければ対応してもらえる安心感、高齢者施設と違って自分の住戸なのでプライバシーが保てること、配食サービス等を理由にあげ

表2 UH永田への入居理由

入居者	自宅で住み続けられなくなった理由	UH永田の情報入手経路	入居にあたり相談した人	UH永田を選択した理由
A	夫は家の中でも杖を使用して歩いていたが、家の中に段差が多いため、よく転倒していた。転倒する度に近くに住む次女に来てもらっていた。その次女が、このままこの家で暮らし続けるのは無理だと判断した。	次女 (次女が暮らす町内にUH永田ができるという噂を聞き、内覧会に参加した)	子供たちや親戚 (主に長岡市内に住む次女)	①バリアフリー住宅 ②次女の家から近い ③夫婦で一緒に入居できる
B	2005年2月に自宅において脳梗塞で倒れているところを発見され、入院した。退院してから、デイサービスを週3回、ヘルパー派遣を週2回、配食サービスを1日1回利用していた。買い物は、長岡市内に住む妹をお願いしていた。EVのない市営住宅の4階に暮らしていて、デイサービス以外は全く外出できなかった。また家の中に段差が多かったのでよく転倒した。	姪 (姪と運営法人のスタッフが知り合いで、情報を得た)	長岡市内に住む妹と姪 (子供いない)	①バリアフリー住宅 ②敷地周辺が平坦で、外出できる
C	2002年に夫が脳梗塞で倒れた。言語障害があり、また認知症もあったために徘徊が激しく、常に見守りが必要な状態であった。約1年半の間、デイサービスやショートステイ、入院を利用しながら自宅で介護していた。しかし、介護ストレスからCさんも体調を崩し、入院した。心配した息子がケアマネジャーに相談した。	ケアマネジャー	長岡市内に住む長男	①運営法人の母体施設でのショートステイや、隣接するSC永田でのデイサービスを夫に利用してもらうことができる ②近隣に生活利便施設が多敷あり便利 ③何かあった時に電話すればすぐに対応してもらえると安心感 ④息子の職場が近い ⑤年金でも払える家賃
D-1	山古志村で夫婦2人で暮らしていたが、2004年の中部地震で自宅が全壊した。その後避難所を経由して仮設住宅に入居したが、その仮設住宅が解消されることとなった。自宅を修理して戻るかどうかが家族と話し合ったが、修理には何百万円もかかること、夫婦2人とも運転ができないので山での暮らしは不便であること、またこれまで雪処理をしてきていた近所の人々が脳梗塞になり頼めなくなったことなどから、自宅に戻ることを断念した。	次女 (Aさんの嫁とDさんの次女が知り合いで、情報を得た)	長岡市内に住む次女	①娘の家から近い
D-2				
E	2003年に大腿骨を骨折し、入院。退院後、デイサービス週1回、ヘルパー派遣毎日1時間利用していた。が、作った料理を隣の部屋に運ぶことすら困難になり、自宅に住み続けるのは無理だと感じるようになった。	ヘルパー	新潟市に住む弟 (子供いない)	①弟は特別養護老人ホームの入居を勧めたが、知らない人ばかりのところ、朝・昼・晩一緒にご飯を食べるのは嫌だった ②自分の住戸なのでプライバシーが保てる ③バリアフリーなので歩行器を使用して移動できる ④料理が大変だったので、配食サービスがあると便利

ている。

5. 入居者の生活展開

各入居者の1週間の生活展開を図3~8に示す。

「自立」のAさんとCさんは、家事を全て自分でこなしている。Aさんは毎日新聞を隅々まで読み、TVでニュースを観て、夜には近くの神社までお参りに行っている。Cさんは、週3回老人クラブのゲートボールの練習に、月2回近くの体育館で開催される体操サークルに参加している。それ以外にも近くにある高齢者センターに週に数回通い、カラオケなどを楽しんでいる。「要介護1」のBさんは、近くの美容院や高齢者センターに歩いて行くものの、外出のほとんどが隣接するデイサービスへの外出である。「要介護2」のD-1さん、D-2さん、Eさんは、週3回のデイサービスに通い、それ以外は家でTVを観ていることが多い。

6. 福祉サービス利用状況

入居者の福祉サービス利用状況についてみる。6人中4人が、隣接施設の介護保険対象サービスを利用している。最もサービスの利用の多いEさんは、週2回デイサービスに通っている。ヘルパー派遣も利用しており、週2回各1時間、掃除・洗濯・買い物を、毎晩寝る前に30分間、清拭と薬の湿布を依頼している。Bさんは週3回デイサービスに通い、週1回1時間ヘルパー派遣を利用して掃除を依頼しているが、洗濯は自分でしている。Dさん夫婦は週3回デイサービスに通い、週1回ヘルパー派遣を利用して掃除を依頼している。洗濯は妻のD-2さんがしており、買い物は近くに住む次女に頼んでいる。

隣接施設では、介護保険対象外である配食サービスを地域に向けて実施している。「自立」のCさんも利用しており、6人中5人が配食サービスを利用している。その内2人は朝と夕食の1日2回、4人は1日3食利用している。

UH永田では他の事業所のサービスを自由に利用することができる。Eさんは、リハビリテーションを目的として、週1回他事業所が運営しているデイケアセンター

に通っている。

また、Aさんは「自立」でかつ料理好きなので、隣接施設の配食サービスを利用していないが、他の組織が実施している配食サービスを週に1回だけ利用している。

7. 入居者の外出状況

入居者の外出状況についてみる。最も外出の頻度が高いのがCさんであり、ほぼ毎日外出している。以前住んでいた地域には生活利便施設が少なかったが、UH永田周辺には多くあり、とても便利になったと喜んでいいる。UH永田の近くにいつでも利用できる高齢者センターがあり、週に数回通って入浴やカラオケを楽しんでいる。老人クラブのゲートボールの練習や近くの体育館で開催されている体操サークルにも参加している。Cさんに次いで外出頻度が高いのがAさんであるが、Aさんはグループ活動を好まないため、老人クラブに参加したり高齢者センターに遊びに行ったりはしない。毎日料理を作っているので、スーパーに週3回買い物に行く。買う物によっては、違うスーパーに行くこともある。また、神社にお参りすることを日課としている。

身体機能が低下すると外出頻度が低下するが、Bさんは近くの美容院まで月1回通い、高齢者センターにも2、3ヶ月に1回通う。元々近くに住んでいたため、高齢者センターに遊びに行くと、以前から知っている人が来ていることが多く、おしゃべりするのを楽しみにしている。Dさん夫婦は、足腰を衰えさせないために、毎日近所を散歩して歩いている。Eさんは、「足腰が弱くなってから、怖くて一人では外出できない」ため、ひとりで外出することはないが、昔から通っている美容院に店の主人の送迎で通っており、昔からの関係を継続している。

8. 入居者の交流状況

子供のいるAさん、Cさん、Dさん夫婦は、UH永田から子供の家あるいは子供の職場が近く、週に1回ほど訪問がある。子供のいないBさん、Eさんは、市内に兄弟

	月	火	水	木	金	土	日
6:00							
8:00							
10:00	料理	料理	料理	料理	料理	料理	料理
12:00	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け	朝食兼昼食 後片付け
14:00	入浴 新聞読む	新聞読む	入浴	新聞読む	入浴	新聞読む	新聞読む
16:00	TV(ニュース) 体操	TV(ニュース) + 体操	TV(ニュース) + 体操	TV(ニュース) + 体操	TV(ニュース) 体操	TV(ニュース) + 体操	TV(ニュース) + 体操
18:00	畑作業 料理	買い物 料理	畑作業 料理	買い物 料理	畑作業 料理	買い物 料理	畑作業 料理
20:00	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩	夕食 神社に散歩
22:00	新聞読む	新聞読む	新聞読む	新聞読む	新聞読む	新聞読む	新聞読む
24:00							

- ・寝るのが遅いので、朝起きるのも遅い。
- ・料理は昔から好きだった。ここはコンロが一口なので、料理に時間がかかる。
- ・毎日新聞を隅々まで読む。特に政治に興味がある。
- ・午後はTVでニュースを観ながら、上半身を揺らす体操をする。
- ・次女がもってきた「ハッピー体操指導マニュアル」を見ながら体操する。
- ・夕方涼しくなってから、近くのスーパーに週2、3回買い物に行く。
- ・同じ町内に住む次女の家の庭で野菜を育てている。毎日行くほどの作業量はない。

図3 Aさんの1週間の生活

	月	火	水	木	金	土	日
6:00							
8:00	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)
10:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV
12:00	ヘルパー 料理 昼食	料理 昼食	デイサービス	ヘルパー 料理 昼食	デイサービス	料理 昼食	デイサービス
14:00							
16:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV
18:00	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)
20:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV
22:00							
24:00							

- ・朝食と夕食は配食サービスを利用しているが、昼食はヘルパーさんを買ってきてもらった缶詰や前のおかずの残りを食べる。ご飯は自分で炊く。
- ・週に3回デイサービスに行って、いろいろな人と話すのが楽しい。
- ・近くの高齢者センターに2、3ヶ月に1回遊びに行く。以前住んでいた団地が近いので、遊びに行くのと知っている人が来ていて楽しい。
- ・月に1回ほど、近くの美容院に歩いて行く。

図4 Bさんの1週間の生活

	月	火	水	木	金	土	日
6:00	掃除・新聞	掃除・新聞	掃除・新聞	掃除・新聞	掃除・新聞	掃除・新聞	掃除・新聞
8:00	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)
	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯
	掃除	掃除	掃除	掃除	掃除	掃除	掃除
10:00	買い物	TV	買い物	体操サークル @体育館	買い物	TV	TV
	料理	料理	料理		料理	料理	料理
12:00	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食	昼食
14:00	ゲートボール @神社	入浴 カラオケ おしゃべり @高齢者センター	ゲートボール @神社	TV	ゲートボール @神社	入浴 カラオケ おしゃべり @高齢者センター	TV
16:00	TV	TV	TV		TV	TV	
18:00	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)
20:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV
22:00							
24:00							

- ・朝食と夕食は配食サービスを利用しているが、昼食は自分で簡単なものを作って食べる。
- ・家でじっとしているよりも、外にでかける方がよい。腰が痛いので、運動したほうが良いと思っていて、ゲートボールや体操サークルに参加している。
- ・体育館で、近くの神社で週3回午後にはゲートボールをしていると聞き、参加するようになった。冬は体育館で週2回朝から午後にかけて練習がある。
- ・週3回近くのスーパーに歩いて買い物に行く。
- ・前に住んでいたところよりも、スーパーや高齢者センターが近くにあるので便利。バスも利用できるため、病院にはバスで行く。

図5 Cさんの1週間の生活

	月	火	水	木	金	土	日
6:00	TV						
8:00	朝食(配食)						
	TV	TV	TV		TV		
10:00	デイサービス	ヘルパー掃除	デイサービス	TV	TV	TV	TV
		TV					
12:00	デイサービス	昼食(配食)	デイサービス	昼食(配食)	デイサービス	昼食(配食)	昼食(配食)
		TV		TV		TV	TV
14:00		散歩		散歩		散歩	散歩
16:00	TV						
18:00	夕食(配食)						
20:00	TV						
22:00							
24:00							

- ・朝早く目が覚めてしまう。妻を起こすといけないので、TVの音を小さくして観る。
- ・体を動かさないと鈍るので、シルバーカーを押して散歩に行く。
- ・ベッドの上に「戦友会の集まり」の案内が置いてあり、たまに見る。胃の全摘手術を受けてからは、戦友会の集まりには参加していない。
- ・「虫亀小学校100年記念アルバム」もたまに見る。夫婦も子供も全員虫亀小学校出身なので、全員映っている。ほとんどが知っている人なので、懐かしい。

図6 D-1さんの1週間の生活

	月	火	水	木	金	土	日	
6:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
8:00	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	
	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	洗濯	
10:00	デイサービス	ヘルパー(掃除)	デイサービス	TV	デイサービス	TV	TV	
12:00		TV		昼食(配食)		TV	昼食(配食)	昼食(配食)
14:00		TV		TV		TV	TV	TV
16:00		散歩		散歩		散歩	散歩	
18:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
20:00	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	
22:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
24:00								

- ・1日3食配食サービスを利用している。週1回ヘルパーに掃除してもらうが、洗濯や片付けは自分でしている。買い物は近くに住む娘に頼む。
- ・毎日夫と散歩に行く。Aさんの紹介で知り合った近所のSさんとおしゃべりするのが楽しみ。たまにSさんがここに遊びに来てくれる。
- ・山古志で生まれ育った。大きな集落で100軒以上あったが、知らない人はいなかった。野菜をあげたりもらったりしていた。

図7 D-2さんの1週間の生活

	月	火	水	木	金	土	日	
6:00	整容 TV	整容 TV	整容 TV	整容 TV	整容 TV	整容 TV	整容 TV	
8:00	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	朝食(配食)	
	TV	TV	デイケアサービス	デイサービス	TV	TV	TV	
10:00	ヘルパー (掃除洗濯買い物)	ヘルパー (掃除洗濯買い物)			ヘルパー (掃除洗濯買い物)	ヘルパー (掃除洗濯買い物)		
12:00	TV	TV			TV	TV	TV	TV
14:00	訪問マッサージ		昼食(配食)		昼食(配食)	昼食(配食)	昼食(配食)	
16:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
18:00	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	夕食(配食)	
20:00	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	ヘルパー使う物準備	
	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	ヘルパー	
22:00	TV	TV	TV	TV	TV	TV	TV	
24:00								

- ・歩行が不安定で、住戸内部でも歩行器を使用している。
- ・ずっと誰かと一緒にいるのは嫌だが、逆にずっと一人でTVをみると頭が悪くなるので、デイサービス等でいろいろな人の話を聞くのはいい刺激になる。
- ・足腰を丈夫にしたいという思いから、デイケアサービスに通ってリハビリをしている。
- ・每晚8時にヘルパーが来て、清拭と薬のシップを依頼している。寝る前に人とお話しすると、「私は一人じゃない」と思えるので、うれしい。

図8 Eさんの1週間の生活

が暮らしており、UH永田に訪問してくる。

UH永田入居者間の交流についてみると、UH永田入居者間の交流を積極的に図ろうとするAさんを中心として、Aさん、Bさん、D-2さんの間で交流がみられる。Aさんいわく、「足腰が弱ってくると家から出てこない人が多くなり、他の入居者と出会う機会がなく寂しい」。

近隣との交流についてみると、引っ越してからすぐAさんは近所のSさんと仲良くなり、家を行き来する仲である。AさんがD-2さんにSさんを紹介し、D-2さんは近所を散歩する時にSさんのお宅に行っておしゃべりするのを楽しみとしている。しかし、近所でそれ以外の人たちと仲良くすることはなく、「生まれ育った山古志で

表3 福祉サービスの利用状況

入居者	隣接施設		他事業所	
	介護保険	介護保険外	介護保険	介護保険外
A				配食サービス(週1回)
B	デーサービス(週3回) ヘルパー派遣・・・掃除・買い物 (週2回・1回1時間)	配食サービス(朝・夕)		
C		配食サービス(朝・夕)		
D-1	デーサービス(週3回) ヘルパー派遣・・・掃除 (週1回・1回1時間)	配食サービス(朝・昼・夕)		
D-2	デーサービス(週3回) ヘルパー派遣・・・掃除 (週1回・1回1時間)	配食サービス(朝・昼・夕)		
E	デイサービス(週2回) ヘルパー派遣・・・洗濯・買い物 (週2回・1回1時間) ヘルパー派遣・・・体拭く・薬塗る (毎日・1回30分)	配食サービス(朝・昼・夕)	デイケアセンター(週1回)	出張マッサージ(週1回)

表4 外出状況

入居者	通院	買い物	その他	デイサービス等
A	なし	・スーパー (3/W・徒歩)	・神社(毎晩・徒歩)	
B	・病院 (1/2M、タクシー)		・美容院(1/M・徒歩) ・高齢者センター(2~3MIに1回、徒歩)	・デイサービス(3/W・徒歩)
C	・病院 (1/M、バス)	・スーパー (3/W・徒歩) ・ホームセンター (1/M・徒歩) ・洋服店 (1/M、徒歩)	・神社でゲートボール(3/W・徒歩) ・体育館で体操サークル(2/M、徒歩) ・高齢者センターでレクリエーション(週数回・徒歩)	
D-1	・病院 (1/2M、タクシー)		・近所(1回毎日・徒歩)	・デイサービス(3/W・徒歩)
D-2	・病院 (1/2M、タクシー)		・近所(1回毎日・徒歩)	・デイサービス(3/W・徒歩)
E	・病院 (1/M、タクシー) ・病院 (1/2M、タクシー)		・美容院(1/2M・店の送迎)	・デイサービス(2/W・徒歩) ・デイケア(1/W・送迎バス)

は、100軒ほどある大きな集落だったが、全員の顔が分かっていた。野菜が採れば近所の人たちに配ったりしたりしていた。しかし、この辺りは誰が住んでいるのかも分からない。」と話している。

Cさんは、ほぼ毎日老人クラブのゲートボールの練習や体育館の体操サークルに参加したり、高齢者センターに遊びに行くなど、グループ活動を中心として他者と交流している。

身体機能が低下してくると外出頻度が減少し、それに伴い交流機会も減少してくる。Bさん、Dさん夫婦、Eさんは、デイサービスに通い、そこで出会う他の利用者との交流を楽しみとしている。Eさんいわく、「入居型施設のようにずっと誰かと一緒にいるのは嫌だが、逆にずっと一人でいてTVを観ていると頭が悪くなってしまう。家から出て、デイサービスでいろいろな人のお話を聞いたりすると、頭の刺激にもなり、楽しい」。

表5 交流状況

入居者	家族・親せき	UH永田入居者	近隣	その他
A	・同じ町内に住む娘が1/W来る。 ・その他の子供もたまに来る。	・毎晩神社にお参りに行くが、たまにBさんを誘って行く。 ・たまにD-2さんが遊びに来る。 ・皆ともっとおしゃべりしたいが、足腰が弱い人が多く部屋からあまり出てこない。減多に会えなくてさみしい。配食サービスのスタッフがやってくると、お手伝いする。そうすると、ほかの入居者とお話できるから。	・引っ越してきてすぐ、近くに住むSさんと仲良くなり、たまにお互いの家を行き来している。	
B	・子どもはいない。 ・市内に住む妹が1/2W来る。市内に住む姉も1/M来る。	・隣なのでAさんと一番仲が良い。		・デイサービスに行き、ほかの利用者とお話するのが楽しい。以前住んでいた団地の隣の棟に住んでいる人が来ていて、その人と特に仲が良い。(住んでいた当時は知り合いではなかった)
C	・一人息子の職場が近く、週に2、3回昼食を食べに来る。息子の家の洗濯機が壊れているので、日曜日に洗濯物を持って来る。			・老人クラブのゲートボールや体育館の体操サークルに参加する。それ以外の日は、高齢者センターに行き、他の利用者とお話したり、他の人が歌うカラオケを聞いて楽しんでいく。
D-1				
D-2	・市内に住む娘が1/W来る。遠くに住む娘が、2、3日に1回電話をかけてくる。	・Aさんの部屋にたまに遊びに行く。	・Aさんに紹介してもらって、Sさんと仲良しになった。 ・生まれ育った山古志では、集落のすべての人を知っていて、お互いに採れた野菜をあげたりしていた。が、このあたりの住んでいる人はほとんど知らない。	
E	・子供はいない。 ・亡くなった弟の妻が市内に住んでいて、1/Mおいしいものを持ってきてくれる。			

Bさんもデイサービスでの交流を楽しみとしており、「以前住んでいた団地がここ（UH永田）から近く、その団地に住んでいる人たちがこのデイサービスに通っている。特に、自分が住んでいた隣の棟に住んでいる人と仲良くしている」。

9. まとめ

本稿では、「UH永田」を調査対象として取り上げ、入居者像およびUH永田での生活について把握した。

UH永田入居者は、特別養護老人ホーム等の入居型施設に入居するレベルほどの要介護状態ではないが、身体機能の低下あるいはバリアの多い住宅のため、自宅では住み続けられなくなった。特殊事例のDさん夫婦を除くと、従前居住地はUH永田から近い。入居理由は様々であるが、子供の自宅や職場から近いことを理由にあげる者が多い。自立度の高い入居者にとっては、周辺の生活利便施設を利用したり、高齢者センター等でのグループ活動への参加しやすい環境にある。身体機能の低下に伴い、入居者の生活は住戸と隣接施設のデイサービス等を中心とする生活となっていくが、従前居住地がUH永田から近い人が多いので、デイサービスに以前から知っていた人や、従前居住地周辺に住んでいる人たちが通ってきており、共通の話題があり仲良くなりやすい状況となっている。身体機能が低下した場合はもちろんであるが、自立であっても不安を感じている入居者が多く、何かあった時に隣接施設に連絡すれば飛んで来てくれることに安心感を抱いている。

UH永田のような小規模なバリアフリー住宅であれば、山古志であっても立地は可能であり、特別養護老人ホーム等に入居する程度の要介護状態ではないが、自宅では住み続けられなくなった人たちが、住みなれた地域で暮らし続けられる一つの方策となるのではないかと考えられる。

【注釈】

*1：長岡市在宅支援型住宅整備費補助金交付要綱に基づく